

法華寺だより



小松原法難会



一二六四年（文永元年）十一月十一日の夕刻、母の病氣見舞いに訪れていた日

蓮聖人一行は、地頭の東条景信等による襲撃を突然受けました。弟子の鏡忍房や後援者の工藤吉隆らが殺され、聖人自身も眉間を切られ片腕を折られると

人間

「にんげん」「人間五十年」と言われた時代もありますが、九十歳の方が珍しくない昨今です。

仏教語

この言葉は、仏教の論書である「俱舎論」が出典らしく、人間の寿命が五十年しかないといっている訳ではありません。「人間五十年、下天一昼夜」。人間の五十年は下天

の一昼夜に過ぎない。下天とは、須弥山の中腹に居るの四天王のこと。仏教でいう天上においては、人間世界における時間感覚とは異なる。価値観を含めたあらゆる尺度が異なる。

いう大けがを負いますが何とか危機を脱することが出来ました。この凄惨な法難の地には、その後「小松原山鏡忍寺（零跡本山）」と「日澄寺（宗門史跡）」が設立され今日に至っております。宗祖の像に、冬期間綿帽子をかぶせているのはこのような由来によるのです。当山では、例年に習い十一月十三日に法要を奉行いたします。南無妙法蓮華經

古来から人間は己れとは何と考えてきた。果たして語り尽くせるのですか【仏教語散歩】（さだまる新書）参照

日蓮検定

日蓮が佐渡の塚原三昧堂で出筆し、五大部の一つに数えられている著書は、どれか？

- 1...立正安国論
- 2...報恩抄
- 3...撰時抄
- 4...開目抄

お会式

十月十四・十五日の両日に渡ってお会式が行われました。特に十五日の正当法要は、宗歌を橋詰さんの奉唱に始まり、森脇上人の説教も相変わらずの巧妙さ。更に、十勝組寺の皆さんも多数参加され一段と賑やかな法要でした。



ご案内

- 1...立正安国論【前執権の北条時頼に奏進した重要著作】
 - 2...報恩抄【旧師、道善房へ深い感謝を捧げた一書】
 - 3...撰時抄【正像末の時代区分を軸にした簡潔な仏教史】
 - 4...開目抄【法華經の行者であることを宣言した著述】
- 我日本の柱とならむ
我日本の眼目とならむ
我日本の大船とならむ

十一月

十三日 小松原法難会
二十九日 異体同心の集い

十二月

八日 釈尊成道会



心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩みや心配事の絶えないもの
.....ご来所やお電話を.....
TEL 一三三・四〇三三

今月の聖語

いつさい こと
一切の事は
とき こと そうろう
時による事に候か

【時の大事】

この御遺文は。南条時光公が日蓮聖人に白米一駄を届けたことに対する礼状です。窮乏の時を知るかのような贈り物への聖人の驚きや、冬の寒さに食糧難という身延での暮らしの厳しさがうがわれます

「上野殿御返事」より
日蓮聖人御遺文



覚書

十月

- 八日・九日 お会式法要 (池田、陸別)
- 十四日 お速夜法要、落語
- 十五日 お会式正当法要
- 二十二日 芽室お会式
- 二十四日 お月見コンサート
- 三十一日 明和会、帯刑教誨



一 休 み

- 「日蓮宗信行読本」より (拾い読み)
- 第四章 日蓮宗の葬儀と追善供養
- 1 日蓮宗の葬儀と追善供養
- (4) お墓は故人と私たちの出会いの場 (一)

およそ二千五百年前、釈尊が亡くなったときお弟子たちはそのお骨を分けて、それぞれの地に持ち帰り塔を建てその中に納めて供養しました。崇敬する釈尊の教えを実践し広めていくために、生きておられたときと同じようにお側に居たいという思いがあったのでしよう。その心は現在の私たちが身近な人を失ったときに、その遺骨に対して思い抱く感情と同じものです。遺骨を納めたお墓などで亡き人を偲び、心で対話さ

「奉仕に感謝」

- ☆ 田本健吾様 御供餅 三重、 ☆ 藤川隆子様 生花
- ☆ 引地能將様・高根繁子様・布薩会様……餅米
- ☆ 木村英一様・婦人会様……みかん、りんご
- ☆ 布薩会と婦人会 様 寺庭等の環境整備、諸準備等々

法華和讃

(五十一)

憂き雲は幾重もかゝれ空に澄む

月はくまなくてらすなり

なむみょうほうれんげきょう

南無妙法蓮華經

妙法和讃

ミニ私見

【憂き雲…】様々な心配事などがあるけれど、やがてすつきりしますよ

【月は…】法華經あるいは日蓮聖人の功德は世の中全てにいき渡るのですから

え出来る、そこがお墓などであると言えます。季節ごとやご命日のお詣りだけでなく、嬉しいこと 悲しいことの報告や相談する場でもあったりします。日蓮聖人は「九カ年間心安く法華經を誦読し奉り候ひし山なれば、墓をば身延に立てさせ給え、未来際までも心は身延に住むべし」と遺されました。お弟子の方々は、聖人の遺言に従って身延にお墓を建ててお守りしています。私たちが身延山に参詣するのは聖人にお会いするためですね。

編集後記

◆今年も無事にお会式を終えました ◆檀信徒各位、殊に布薩会や婦人会の皆様の献身的なご供養有つてのこと ◆本日の小松原法難会を終えると平成二九年度も五十日ほど ◆来月の釈尊成道会で今年の行事も団円 ◆良いこと嬉しいことばかりではないでしょうが ◆それなりに実り有ればよし、楽しみは来年に ◆何はともあれ、住職の意を受けて ◆感謝、深甚、深謝 ◆

参照・引用

- ※ 日蓮聖人聖語カレンダー
- ※ 「日蓮検定」
- ※ 「日蓮宗新聞」
- ※ 「日蓮と日蓮宗」
- ※ 「仏教語散步」等々

◆ 山崎記 ◆